

本堂内外



本堂正面

庫裡から見た本堂



日教上人彰権碑

本堂入口に掲げている常題目

寺務所・客殿

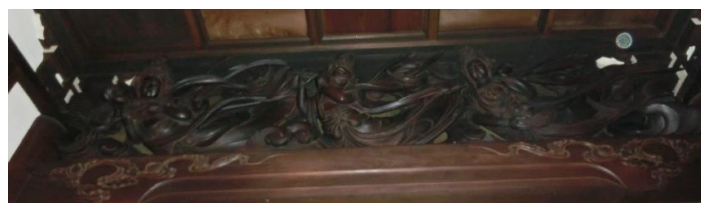


本堂回廊にある佐藤玄々の彫刻の数々



本堂内陣

内陣上の天女像の彫刻





銅板葺屋根の左右にある鳳凰



勝田蕉琴（日本画家） かつた しょうきん

1879年(明治12年)生 ～ 1963年(昭和38年)没。
 福島県東白川郡棚倉町に生まれる。本名・良雄。
 会津の日本画家・野出蕉雨に師事、蕉琴の号を受ける。
 橋本雅邦の門下。東美校卒業後、岡倉天心の推薦で渡印。
 仏画制作と仏教美術研究に従事。
 文展・帝展を中心に活躍。狩野派の筆法を伝える花鳥画
 で定評を得る。

1998年(平成10年)、腹心県立美術館で「反骨の画家
 勝田蕉琴」が開催された折には、この鶴の絵が代表作として正面に飾られた。



佐藤玄々（彫刻家） さとう げんげん

1888年(明治21年)生 ～ 1963年(昭和38年)没。
 福島県相馬郡中村弔の宮彫師の家に生まれる。本名・清蔵。
 17歳で上京し、高村光雲の高弟・山崎朝雲に師事、「朝山」の号を与えられる。
 34歳の1922年、官費留学によりフランスへ渡り、アントワープ・
 ブルーデルに近代彫刻の粋を学ぶ。

1948年に独立して、「玄々」と号する。
 昭和を代表する木彫界の巨人と称される玄々氏が、1951年
 (昭和26年)制作した日本橋三越本店の中央ホールに1階から
 4階まで吹きぬけてそびえる「天女像・まごころ」(鉄骨基礎の
 上に檜材・木彫彩色)が、有名であるが、当山本堂内外の彫刻
 の数々は、50歳の昭和15年ごろ、福島県下の豪農の屋敷内に
 5年間籠り、心身込めてケヤキ材を彫り出したもので、後の
 天女像の原作ともいえる力作。

